



# 【自衛隊札幌病院創立67周年記念行事】

令和4年6月11日

令和4年6月11日（土）自衛隊札幌病院（病院長 鈴木陸将）は、自衛隊札幌病院創立67周年記念行事を挙行了。今年には新型コロナウイルス感染拡大防止対策を徹底した上で、3年ぶりに来賓9名をお招きし、記念式典と病院の歴史資料等に関する展示を実施した。

鈴木病院長は式辞で「1年を振り返り、特筆すべきは新型コロナウイルス感染症対応である。当院は地域の医療機関の1つとして、発熱・接触者外来の設置、コロナ陽性患者の入院診療、コロナ輪番を実施してきた。昨年5月から11月までは1・2回目接種を、本年3月からは3回目接種の推進の目的で、自衛隊大阪大規模接種会場へ医療従事者を派遣し同時に、北部方面隊所在部隊隊員に対して、職域接種1・2回目の約35,000回を、3回目は、現在まで約7,000回実施し、感染流行当初から現在までの長期間にわたり自衛隊内における新型コロナ感染症対策の重要な一翼を担ってきた。このような状況においても、隊員等の診療、健康管理や身体検査は確実に実施し、けが・災害、消化器2次、精神科救急輪番を行い地域医療に貢献するとともに、病院の診療業務の充実を図り、それに加えて、胆振東部地震の成果・教訓を踏まえた災害対処訓練を実施するなど、北部方面隊における救命ドクトリンの実効性の向上を通じて、衛生支援能力の向上を図ってきた。自衛隊札幌病院も、「地域等との連携」を強固にしつつ、病院における診療を充実させ中核型基幹病院・急性期病院としての能力向上を図り続けることが必要である。

今後も、この自衛隊札幌病院が、各種事態に「即応」とするとともに、取り巻く環境の変化を先読みしつつ、適切かつ柔軟に「進歩」を重ねて益々発展し、北部方面隊の衛生支援の要である唯一の病院、自衛隊衛生における中核型基幹病院、また地域の公的医療機関として、職員一同がその責務に「誇り」と使命感をもって勤務し、国民、地域の住民、隊員及び家族の負託により一層応えられるよう、「信頼される自衛隊札幌病院の創造」に邁進していく。」と述べた。

感謝状贈呈式では、これまでの病院に対する積極的な支援・協力により院務運営に寄与された、豊友会前会長 黒澤氏、委託医師 今井氏、元委託医師 池田氏、元病院モニター 橋内氏の4名に病院長から感謝状が贈呈された。



記念式典



執行者式辞



感謝状の贈呈



豊友会長祝辞



病院の歴史等の展示



集合写真